

神奈川県立金沢養護学校



学校だより

第 123 号 平成 29 年 5 月 29 日

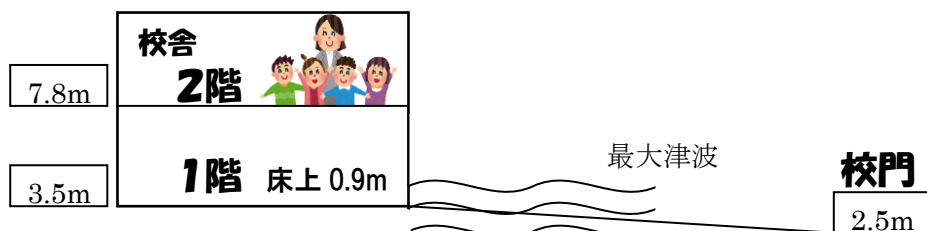
シーサイド学園 津波に備える

☎0456 7.8m へ

副校長 相川 修一

新しい年度が始まり、新入生のお友達を迎えるとともに、多くの教職員も着任しました。真っ先に新職員と確認したのが、本校の立地です。広大な富岡総合公園とベイサイドマリーナが直近で、多彩な教育活動が展開できる環境ですが、東京湾岸から直線で 500m、まさにシーサイド。万一、大きな地震が発生したときは、津波の浸水地域です。

本校の正門・裏門付近は海拔約 2.5m、校舎 1 階の床面は海拔 3.5m、津波の予想最大高は海拔 4.4m ですので、1 階床上 90cm になります。津波は、たった 30cm でもいのちを落とすことがあると言われていています。本校の校舎は 2 階建ですので、もっと高い建物に避難したくなりますが、関係諸機関の知見を集めた結果は、次の通りです。



校舎は特別支援学校として大地震にも耐える十分な強度、天井高も高く設計しており、2 階は海拔 7.8m ある。地震によっては 3 m 程度の津波がわずかに数分で到達するケースも想定され、校門を出るのは危険。万一のときが酷暑・厳寒・降雨かもしれない、最低でも 3 時間は避難を続ける必要がある。よって、災害対策備蓄品を 2 階に集めて避難するのが、最も適切である。

そこで本校職員はもちろんのこと、保護者の皆様、日ごろからお世話になっている学校関係者の皆様との合言葉にしたいのが、

「電話は 0456 津波は 7.8m へ」です。 (職員室電話番号が 770-0456 であることから)

肢体不自由教育部門の子どもたちを、安全に 2 階へ上げる訓練をしていますが、エレベーターが使えず余震もある中で課題です。また、校外活動中の対応や子どもたちが不必要に不安にならないよう長時間過ごすための準備、学校再開のための研究を進めます。